【2016 京都自治研集会第 3 分科会「京都自治研賞」受賞レポート】

清掃職場の新たな取り組みと新たな公共サービス確立のために

八幡市職員労働組合現業評議会
小林勇也・久保小太郎・奥村将真

1. はじめに

私たちは八幡市役所環境業務課の職員です。職種は技術員（ごみ収集作業員）で、現業職員として位置づけされています。

全国的に、清掃職場や学校・保育園給食・庁務員のような現業職場は、退職不補充や民間委託により、縮小されるなど大変厳しい状況にあります。そんななか、私たちが所属しています環境業務課の現在の状況、そして環境業務課職員としてどのように市民サービスの発展に関わることができるのか、また、労働組合（現業評議会）の活動としても、今後どのように取り組んでいくかを、自治研レポートとしてまとめてみました。

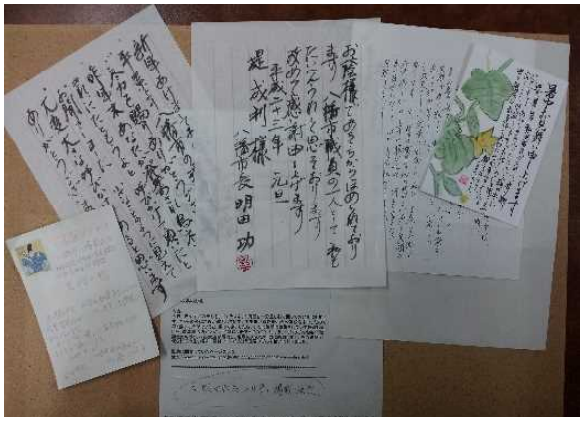
2 . 採用されて感じたこと

新規採用され、環境業務課に配属されました。私は、収集運搬業務が仕事だと思っていましたが、市民が出すごみを回収することだけではなく、八幡市においては、作業工程に集積場の「カラス除けネットの後片付け」が含まれています。たたみ方を先輩職員から学び、どのようにすれば速く丁寧にたたむことができるのかを工夫し、練習を重ねました。そして飛散ごみを掃除し、集積場を綺麗にすることで、市民サービスに力をいれていることに驚きました。また、収集業務のなかで、資源の分別方法についての啓発も行い、市民にも理解していただき、喜んでもらえることで、やりがいを感じました。

採用されるまでは、公務員は安定しているものだと思っていました。しかし、現業職場は、退職不補充や民間委託などによって労働条件が悪くなっているなど、とても厳しい現状であることを、先輩職員に教えてもらいました。そのなかで、労働組合を通して先輩職員が「カラス除けネットの後片付け」を現場の発想（組合提案）として行い、市民からの信頼を得ていることなど、労働組合の必要性などを教えていただきました。その後、自ら現業評議会の幹事会を見学し、現業評議会が必要だと改めて知ることができました。労働組合無しでは職場を守ることができないこと、さらには市民サービスの低下にも繋がると思い、現業評議会の役員として組合活動に参加しました。

組合活動を始めるまでは、私が採用されたように、正規職員の採用が当たり前のように行われていると思っていましたが、そうではなく、組合活動をしていないと確実に採用されるかは分かりませんでした。そのなかで、組合活動を継続し、正規職員の必要性を訴え続けた結果、今年新たに仲間を増やすことができました。これからも厳しい現状は続きますが、自分たちの職場を守り、市民サービス向上のためにも、仲

収集後の「カラス除けネットの後片付け」



「カラス除けネットの後片付け」実施によって
市民から届いた多数の感謝の手紙

間を増やしていくことが大切だと思いました。

3．八幡市で始めた新たな業務

八幡市では、近年、収集業務以外にも、次のような業務を積極的に導入し、環境業務課が行う市民サービスの幅を広げています。八幡市で新たな業務を企画立案し、実行しているのは、すべて現場の清掃職員で、その知識と技術、そして現場での経験の質の高さが求められてきてます。

【出前授業】

八幡市では、2014 年 4 月から、市内の小学校 4 年生に、環境教育の一環として環境業務課職員自らが小学校を訪問し、授業を行っています。小さい頃から、分別方法やその必要性を伝え、実際に収集業務に携わりながらごみ収集や環境問題について、少しでも興味を持ってもらい、将来的なごみの減量につながる業務を行っています。

「出前授業」については、現在、小学校のみとなっていますが、自分たちの収集業務の存在や分別方法を発信するために、保育園や自治会に対しても出向き、少しでもごみの減量や分別、そして資源の重要性を伝えていかなければなりません。

「出前授業」を行う環境業務課職員

【再任用職員の業務（ふれあい訪問収集）】

2014 年 4 月から、八幡市では「ふれあい訪問収集」を行っています。「ふれあい訪問収集」とは、1 人でごみを出すのが困難な独居世帯に対し、個別に訪問し、家庭ごみを収集すると同時に、安否確認を行うというものです。

導入に至るまでの経過としては、労働組合を通じて他府県の市町村への視察を行い、情報を収集し、何度も試行錯誤した結果、このサービ

スを実施することができました。「ふれあい収集」を導入した時のように、労働組合のような業務上以外での横のつながりが、今後も重要になると感じました。

現在、この業務は再任用職員が行っています。今後、大量退職を控える八幡市環境業務課の再任用職員の業務として、今まで培ってきた技術を活かし、無理なく安心して働くことのできる新たな業務をつくっていくために、組合活動などの横のつながりを活用していく必要があります。

訪問時の安否確認の様子

安否確認の後、ごみを収集

4．現業職場における正規職員の定数の重要性について

八幡市環境業務課では、2014 年 3 月に「環境業務課清掃職員の定数に関する覚書」を市当局・市職労・現業評議会の連名で交わしました。覚書を交わしたことで今後 10 年間の人員採用計画が決定し、全国的に貴重な清掃職員の新規正規職員を、継続的に採用することが可能となりました。

これまで、採用を凍結していた十数年間で、年齢構成が偏ってしまいましたが、この採用計画があることで、今後 10 年、20 年先までの人員配置の見通しがたちました。高齢化していた環境業務課が若返ることで、今まで以上の作業の効率化が図れるようになり、より市民サービスを充実させる計画が立てやすくなりました。また、職歴の長い先輩職員と、同時期に業務を行える職員が増えることで、技術・知識を継承できるようにもなりました。

このことからも、現在では全国的に採用の少ない現業職場では、新規正規職員を継続的に採用し、市民サービスを維持・向上させるために、協約締結権を最大限発揮し、新規採用や労働条件について正式に文章を交わすことができる「組合」、とくに「現業評議会」という組織での活発な活動は必要不可欠であり、今後も必要な条件等については、しっかりと当局と文書確認等を行っていきたいと考えています。

【災害への対応】

清掃職場への正規職員の新規採用があることによって、災害時には、とくに現場力を発揮することができます。八幡市でも 2012 年の京都府南部豪雨災害と 2013 年の台風 18 号による土砂災害によって、2 年連続で豪雨災害に見舞われましたが、災害ごみの対応については、長年清掃職場を経験してきた管理職と監督職が中心となって指揮をとることで、市役所内での職種を超えた連携を円滑に行い、迅速な災害対応をとることができました。このように、災害時には、清掃職場の正規職員が通常の収集業務に加え、災害ごみの収集を行うだけでなく、管理、監督職にも清掃職場を経験している職員を配置し、市役所内での横のつながりを築くことができる環境を準備しておくことが、災害大国と言

連携を取りながら災害ごみを収集する環境業務課職員

われる日本の市町村には必要不可欠です。

【新たな業務を確立するために】

継続して新規採用を行い、「出前授業」や「ふれあい訪問収集」など、新たな業務をつくるために重要となってくるのが、現場と管理職との信頼関係です。管理職と円滑な関係をつくっていなければ、どんなに優れている案を打ち出しても、それは却下されてしまいます。八幡市の環境業務課においては、組合提案（現場職員の発想）として、「カラス除けネットの後片付け」や「飛散ごみの掃除」等を行い、市民に評価され、市民の声を市当局に届けることができたからこそ、現場の職員の必要性を認めてもらうことができました。

現場の発想から市民サービスを行うことで、市民に一番近くで接し、ニーズを吸い上げている現場職員の必要性を伝え、市当局と信頼関係を築いてきました。

その結果、八幡市では現場の職員（現業職員）が管理職として必要とされ、そして任用されました。

清掃職場の実状や、清掃職員とともに長年収集業務を行ってきた管理職であるから、市民ニーズに応えることができるのが現場の職員だということを知っています。

業務内容を把握している管理職であるから、現場の気持ちを一番に共感し、現場の声を吸い上げ、迅速かつ的確に業務に反映することで、市民ニーズに応えることが可能になります。

なにより、市民ニーズを吸い上げ、直接応えているのが、現場の職員であるということを、管理職が理解しているからこそ、市民サービスの維持、そして向上につながります。

そして、自ら発案した市民サービスを積み重ね、災害対応などを通じて現場と管理職の信頼関係を築いた結果、ふれあい収集や出前講座などの新たな業務を、現場の職員が企画立案し、実行に移すことができました。

現場（一般職）と管理職という、基本的には縦の関係ですが、八幡市においては、清掃職場を経験した管理職がいるからこそ、市民サービスを同じ目線で考えることができると感じています。そして、同じ目線で考えることは、これからの市民ニーズに応えていく、一つの近道になるのではないかと考えています。同じ目線で話し合い、市民サービスの拡充を図るためには、市民ニーズを常に把握し、新たな業務を自分たちで確立し続け、信頼関係を築いておくことは必要不可欠です。

5．最後に

これまで、先輩たちの企画立案で行ってきた「カラス除けネットの片付け」や「飛散ごみの掃除」、小学生を対象とした「出前授業」、その他災害対策をはじめとするたくさんの市民サー

ビスを行い、市民ニーズに応え続けてきた結果、新規職員を採用し、職員の定数に関する覚え書きを、労働組合を通して交わすことができました。これからも、定数通りの新規職員を採用し、定数を守って行くには、これまで行ってきた市民サービスだけでなく、新たな職を確立していくことが、八幡市環境業務課にとっては急務であると、私たちは考えています。

新たな職を確立するには、日々の業務の中で、時代の流れを敏感に感じ、毎日同じことをただこなすだけではなく、変化をつけて業務を行うことが必要だと思っています。

市民サービスの向上や市民ニーズの対応、災害支援などは、正規職員がいなければできることではありません。正規職員を採用し続けることで職場が活性化され、職場が活性化されることで市民サービスの向上、市民のニーズに応えるということに繋がると考えています。

私たちも、収集業務のみを行うのではなく、先輩たちのように、市民ニーズに合った新たな業務を模索し、発信し続け、これからもきれいな八幡市の街並みをつくっていきたいと思います。

そして、八幡市の活動内容を、積極的に全国に発信することで、全国の清掃職場に正規職員の仲間が増えていくことを願い、今後も活動を続けたいと思います。